

高山西ロータリークラブ 創立1966年1月15日

例会報告 Rotary



奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 鴻野 幸泰
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 向井 公規
- 会報委員 田邊 淳

第2667回例会 令和4年5月27日
会員増強委員会

<会長の時間>

先週は、私にとってロータリー週間でした。5月22日は我クラブの新緑例会で新穂高ロープウェイと穂高荘山のホテル様でのワインと料理を楽しむ会でした。野尻さんには、たいへん美味しい料理とワインを楽しませていただき誠にありがとうございました。そして親睦委員長の杉山さん、田辺さんには数々の準備をしていただき誠にありがとうございました。



5月18日と19日は、東京へ行き19日に紀尾井町ロータリークラブの例会に幹事の向井さん、パストAGの伊藤さん、内田さん4人でメイクアップに行ってきました。

21日には高山岳城ライオンズクラブの結成50周年の式典と祝賀会がグリーンホテルで開催され出席してきました。高山岳城ライオンズクラブの50周年の事業としては、高山城山公園に東屋を建設され高山市に寄付をされ、市への引き渡しの式典は済まされているとのことでした。式典では、来賓のあいさつそして表彰などがありました。祝賀会では、初め高山西高校のウィンドアンサンブルの演奏がありその後の祝宴では、マグロ解体ショーなどがありコロナ禍ではありましたが大変盛り上がりしました。

私は今回初めてライオンズクラブの行事に出席しましたが、ライオンズクラブは、We サーブです。ロータリークラブは、Iサーブですがロータリークラブは、職業奉仕が関係しますのでIサーブだと思うのですが、皆さんは、Iサーブをどのようにお考えですか？

<幹事報告>

◎はぐるま会会長より

- ・第201回はぐるま会開催のご案内
- 日時 6月12日(日) 12:29~スタート
- 場所 飛騨高山C.C
- 表彰式 洲さき 表彰式参加費 16,000円



◎高山市青少年育成市民会議より

- ・高山市青少年育成市民会議総会資料

<例会変更>

- 高山 … 6月30日(月)は、新緑家族例会のため、18:30~ ホテル高山アソシアリゾートに変更
- 可児 … 6月9日(木)、6月30日(木)は、定款により休会

<受贈誌>

米山記念奨学会(イライトよねやま266)、東京紀尾井町RC(会報)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
26名	-	26名	34名	76.47%

紀尾井町RC訪問報告

内田 幸洋

5月18日朝10時、鴻野会長の愛車にて伊藤松寿さんを含め3人で出発、夕方4時前に赤坂見附のエクセルホテル東急にチェックイン。6時頃から赤坂の夜を探索、夜遅くまで遊んで来ました。次の日の午前中、明治新宮参拝。心身を清め、午後からの例会に出席、交流を深めてきました。詳しくは伊藤さんより報告があります。



伊藤 松寿



5月19日、鴻野会長、向井幹事、内田さん、私、伊藤の4名で例会に出席しました。紀尾井町RCは、RI第2580地区に所属で、1992年の創立、本年創立30周年を迎えました。会員数は78名で、そのうち女性会員が約4分の1の19名を占めます。例会場は、赤坂のホテルニューオータニで、バナー交換をしてまいりました。



例会報告



＜本日のプログラム＞ 会員増強委員会

委員長代理 杉山 和宏

本日は井口会員増強委員長がお休みのため、委員の杉山がご案内させていただきます。本日は高山市議会議員の中田清介さんに卓話をお願い致しました。現在の高山市政におきましては、ゴミ処理場や産廃処分場といった様々な課題がある中で大変ご苦労を頂いている状況ですが、今回のこの卓話を今後のロータリーの奉仕活動などの参考にさせていただき、市民に役立つ奉仕活動を通じて、ひいては会員増強に繋げると、こじつけかとも思いますけれども、そういう意図で皆さんと一緒に勉強して行きたいと思っております。中田様、本日はお忙しい中例会にお越しいただきありがとうございます。よろしく願いいたします。



高山市議会議員

中田 清介 様

本日代理で呼ばれましたが、顔なじみの皆さんも沢山おられます。宜しくお話ししたいというふうに思っています。自己紹介をさせていただきますと、1948年生まれ、ちょうど団塊の世代です。2015年問題、2040年問題の対象である団塊の世代で、私たちが2040年問題の頃には90歳になるという想定です。その頃、我々の同級生は約3000人が高山に残っているんじゃないかというふうに言われていますけど、この3000人のうち女性が大半で、予想ではほとんどが認知症になってしまう、私たちはそういう世代ですので、早くいなくなってくれと言われぬように頑張っていきたいと思っております。私たち世代が65歳になった2015年問題、これから高齢者ばかりでどうするんだと思いました。私たちが75歳以上の後期高齢者に入る



という節目の2025年問題までとわすかです。2040年問題は、大変な超高齢化の中で産業をどう守っていくのか、就業人口構造はどうなっていくのかということが一番の問題だということになっております。

現在、このコロナ禍の3年間の高山市の産業人口構造を見ますと、大変心配な件が多くございます。支所地域における人口減少が激しくなっており、支所地域を支えていただくような中間層が今後も非常に細く薄くなっていくと言われてます。後継者のいない独居老人の方や寡婦の方から、交通手段をまかなっていただけない、公共交通があるといつても一日に三本。そんな中でどういふふうにして、私たちは毎日のおかずを買いに行ったり、生活必需品を賄っていただけるのか、これは深刻な問題なんだというふうに言われています。それからもう一つが、JAも撤退する、石油スタンドがなくなる。車社会の中で、私たちはもう孤独に耐えて死んでいかなきゃならないというようなことを言われております。

それを振り返って高山市全体を俯瞰してみます。今回の6月議会に対する補正予算案の中で今までにないことが2つ程ありました。その一つは建設発注に絡む問題ですが、事故繰越が災害復旧問題に関して10いくつ出てきております。これまで年度をまたいでも切れ目のない公共事業発注ということで決まっていたが、事故繰越があつて、次年度で前年度の執行をしなければならぬ、契約を繰り越すのは12社になりますが、それは現年度の災害に対する公共工事の発注が多く、農業土木の工事がほとんどでしたが、中には入札が適わなかったという問題がありました。その根底には労働力不足、発注がかかり応札したが、現実の問題として工事量をこなせないという状況に今あるということをご承知おきたいと思っております。働く人がいないから公共工事を満足に組めず執行できないという姿が浮かび上がってきており、それが全ての問題に絡んでいます。

人口減少からくる産業構造の転換ということは、今の観光産業全般についてもいえることです。この地域にも皆様ご存知のように、たくさんホテルが林立しております。全国から、高山は捨てたもんじゃない、おもてなしの心がある、まだまだ経営余力があると言われてますし、これからの高山の産業展開として、観光業がリーディング産業として引っ張っていかなくやならないと捉えております。しかし結局この辺のホテルはほとんどシティホテルの体制を取り、ベッド&ブレイクファストで夕食は出さない、朝食のみの形態で、特に昨今建設ラッシュのホテルについては全部そのような状況だそうなんです。そこで問題になるのが、やはり仲居さん不足、料理人不足。これは非常に深刻だと言われてます。観光産業としても、働いている皆様は家のローンから子育てにかかる経費等ありますので、雇止め等とかで今の職業を離れますと、もう次の職を求めて移動されてしまつて待機予備軍にはならないと分析をされています。ですから、今後高山市のおもてなしの核である観光産業の宿泊関係において非常に危惧されるのは、このままの状況だと地域に働く人がいないので、最後は派遣

例会報告

に頼ってしまうと言われます。派遣になるとどういう事が起こるのか。今でもそうですが、白川村の時給の状況についてよく言われます。もう高山の比じゃなく時給2000円が当たり前。なぜそんなに高いのかということ突き詰めて言えば、やはり働き手がない。そういう所へは高給でいざなってこなければという風に、家族経営以外の業種は深刻な問題になりつつあります。そんなことが高山で度々起きないように、産業就業人口構造をこれからしっかり捉えながら、リーディング産業の基盤を作っていくべきということを、最近つくづく考えております。

本日お持ちした資料は定数問題を考える時に、平成17年の合併後高山の状況はどんなふうに移してきたのかという観点でまとめたものですので、今回お話しすることに直接関係ないかもしれませんが、根底のところでは、人口減少と高齢化に伴う若年人口が極端に外に出てしまっているという問題を含んでおりますので、読んでいただければ糸口になるのかなとお持ちしました。

それから、町内会問題とまち協の問題。当初考えたまち協のあり方が、少し変わってきてしまっています。このことに関する原因はどこにあるのだろうか？ということも話題としていいと思っています。また、もう一点は、昨年の6月議会でも、駅西地区の今後のあり方、どういう街づくりを進めていけばいいのか、ということは非常に議論になっています。商業開発、商業施設が活動できるような用途地域になっており激変していますが、一步出ますと南小学校という学校教育機関もありますので、土地利用の問題についてこれを正しながら、ターミナル機能をどうやって整えていくのか。ターミナルは、高山へおいでになった皆さんを受け入れて、それを目的ある観光等の為に市街地へ送り出す、そういう役割ですが、この駅西地区のターミナル機能をどういう風に整えていったらいいのかということ、去年の6月頃から9月頃までかけて議会で揉んでいました。

そして、火葬場の問題とかごみ焼却場の建設の問題、高山市が抱える巨大大事業の進捗がこの10年、なかなかかはかどらない状況にある。この原因はどこにあるのかと考えますと、やはり市民の意見をよく取り入れながら、その人達のアイデアを生かしながら街づくりを進めていかないと、ある意味で役所の強引な誘導策だけでは頓挫してしまうということを感じさせていただいた10年間でもありました。

それから今後の問題として、自然エネルギーの活用問題と地域振興ということ。太陽光・小水力、それから今盛んに投資が行われようという段階にある地熱の問題です。特に地熱発電に関しては、今上宝地区で7つのプロジェクトが動いておりますし、一つはもう運用段階に入っておりますので、非常に多くの企業が投資を行おうとして身構えている段階です。一つのプロジェクトが50億程度ずつありますので、今後の展開次第では、この10年間に500億ぐらいの資金が上宝地域に投入されるというような状況になりつつあります。これは確定しておりませんので、今後の高山市の考え次第で大きくぶれる可能性はありますが、地域の振興

には欠かせない、非常に大きな問題とっております。ただ、それを受け入れるための環境づくりがうまく進んでいないということです。地熱発電では、利用する温泉の枯渇懸念がございます。それから振動騒音。環境問題が大きからんでいる為、先般一週間程前ですが高山市がセッティングをして、地熱関係の発電事業者の皆さんと地域住民の皆様で、今後どういう問題があるのかということをお話し始めました。やはり条例整備等をきちっとかけていただかないと、資本の論理で我々の大事な大自然と資源を食い荒らされるんじゃないかという懸念が、住民の皆様からたくさん出たようです。自然エネルギー活用日本一のまちづくりと市長は打ち出していますが、現状は、町内で分担をどこが受け持つていく、その根拠をどう整えるかということのせめぎ合いで、責任の押し付け合いが起きているような状況でうまくいっていませんが、この辺を整えていかないと地域の未来が非常に危ういところに陥らないかと思っています。特に先ほど申し上げました人口減少が合併時97,000程でしたけれども、合併後特に進みまして、もう87,000を切ってしまうという段階、この15年で、もうそれぐらいまで進んでおり、2025年問題、2040年問題を加えますと、非常に暗澹とした思いになるのも否めないところです。

そして、地域振興ということで今問題になっておりますのが、入湯税と宿泊税です。これは関係業者の皆さん良くご存じですが入湯税、2億5~6000万あったのが、昨年の段階で約1億に減ってしまっています。入湯税収入減そのものが観光振興にかける予算の減額ということにも繋がっておりますし、役所が行う観光振興事業ばかりじゃなくて、関係団体が自主的に行われている事業にまで影響を及ぼす深刻な問題となっております。

入湯税は、そもそも四つの目的を持った目的税でありました。まず観光振興、そして旅館等でのおもてなしに必要な不可欠なゴミ処理等の環境衛生施設整備と消防設備、こういうものに加えてもう一つ大事なのが鉱泉源。利用させていただく温泉そのものの維持管理に使うという目的税になっています。それで現状は入湯税の半額は観光振興にあてて関係団体の皆さんで使っていただくということになっておりまして、そのところの落差はどう克服して行ったらいいのだろうかというのは、非常にこれからの高山市の行く末にも大きな影響をもつ問題だと思っています。足らざるところを埋めるためには宿泊税、というような議論も出ておりますが、宿泊税そのものは大都市、東京、大阪、函館等がもう導入しておりますけど、市と県とで二重課税になる問題があるというようなことと、本当にその財源は必要なかを精査をしてから宿泊税に手を出したらどうだという議論も巻き起こっております。高山市でも、この3~4年、宿泊税の問題が今も陳情含めて多く取り上げられておりますけど、足らないから補うために新しい税をかけるってだけでなく、世界中、国内の皆さんも含め多くの地域から沢山の方をお招きして満足してもらおう状況になるためには、地域が相当の努力をしなきゃならないということも言われておりまして、私達は少し観光にかける入湯税の問題をきちん

例会報告

と組み立て直さないと、ちょっと拙速になりすぎていないのかということも話し合っているところです。これはまだ結論も出ておりませんし、今後も引き続き大きな問題だと思っております。

これまで色々申しあげました事が、どれも支所地域には特に大きな問題を及ぼすことになっています。ご存知のように、支所には少なくとも40人から70人位の職員が張り付いておりました。それによる地域への経済効果はそれなりにありました。今、支所地域で多くて十数人という職員しかおりません。なかなか目も届かないし、役所の消費が及ぶ地域への波及効果という点から調べてみますと、かなり落ちています。そういう中で、地域の核となる計画をきちんとたててやらないと今後成り立たないのではないかと、ということが非常に懸念されたのが、市によるアルコールとモンデウスの統合縮小問題。どちらか一つに縮小すればいいのかわかるといことについて、この担当は現在プロモーション戦略部門のブランド戦略課です。ではブランド戦略課、観光課、もう一つ海外戦略課、この3つの体制の中でどこが郡部地域の今後の地域振興の問題を担っていくのかと質したところ、今のところそこでは無理です。だから部長だけ、一人で走り回っています。役所のネットワークを活かした側面支援がいるのだから、企画部門がきちんと支所地域の主張について確認しながら、ベースとなる話から組み立て直せとこの間議会でも言って参りました。

支所地域に行ってみれば分かりますが、担い手が誰もいないんです。そこに住まわれている中堅若手といっても、もう50過ぎた方が多くおられるだけで、全部高山に通勤されております。日々の支え合いということも出来なくなっている支所地域の課題を考慮に入れながら、今後の高山市全体のあり方を考えていきたいと思っています。

これらの解決策一つのものとして、ワーケーションによる地域の施設の活用策に活路がみいだせるのではないかと提言としてまとめております。現実の問題としては難しい所もありますけど、粘り強く今後の高山市の発展に向けて努力して行きたいと思っております。

本来は私がここで話すより皆様からご意見をいただきましたんですけど、時間もありますので以上とさせていただきます。たくさんの方が山積しておりますが、今後とも皆様の御意見をいただけますように議会としてもお願いをさせていただきます、今日の話に代えさせていただきます。本当に今日は機会をいただきまして、ありがとうございました。



<ニコニコボックス>

●鴻野 幸泰さん、向井公規さん

- ・本日は会員増強委員会担当例会です。ゲストの高山市議会議員 中田清介様、お忙しい中ようこそお越し頂きました。後ほどの卓話どうぞ宜しくお願いします。
- ・5月22日の新緑例会に参加していただいた皆様ありがとうございました。杉山親睦委員長はじめ会場の準備やワインの説明を頂いた野尻さん、バスやロープウェイの手配を行って頂いた田邊さん、本当にありがとうございました。お陰様でワインを沢山頂き、おいしい料理を頂きながらの楽しいひと時でした。

●米澤 久二さん、垣内秀文さん

高山市議会議員 中田清介さんのご来訪を熱烈歓迎します。本日のお話し楽しみにしています。宜しくお願いします。

●伊藤 松寿さん

- ・中田清介さんのご来会を心より歓迎致します。
- ・5月19日、東京紀尾井町ロータリークラブに鴻野会長、向井幹事、内田パストAGと私伊藤の4名でメイクアップを果たし友好を深めて参りました。

●杉山 和宏さん

先週の新緑家族例会には多くの会員の皆様・奥様方にご参加頂き誠にありがとうございました。また田邊さん、野尻さんには準備、当日ともに大変お世話になりました。貴重なワインの差し入れを頂いた古橋さんご馳走様でした。ありがとうございました。

●塚本 直人さん

5/22の新緑家族例会は、とても充実した楽しい時間でした。鴻野会長、向井幹事、杉山委員長お疲れ様でした。そしてありがとうございました。野尻さんのおもてなしにも感動した一日となりました。少し飲み過ぎました、反省です。

●挾土貞吉さん

楽しみにしていた新緑例会、ヤボ用で欠席しました。野尻さんのおいしいワイン飲めなくて残念でした。次の機会を待ちます。

●阪下 六代さん、内田 幸洋さん、田中 武さん、遠藤 隆浩さん、 門前 庄次郎さん、垣内 秀文さん、大村 貴之さん、中島 一成さん、 堀 幸一郎さん

先日の新緑例会、ご苦勞様でした。あたり一面真っ白な頂上の幻想的な景色、そしてステキなワインと思い出に残る一日となりました。杉山親睦委員長、野尻ソムリエありがとうございました。